都道府県名	徳　島　県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	穴　吹　中　学　校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	１	１	２	１	５	
生徒数	３３	３３	４８	２	１１６	１２

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

生きる力の育成をめざした基礎・基本の確実な定着

２．研究内容と方法

（１）　実施学年・教科

○１・２・３年：国語
国語力向上モデル事業の指定を受け研究中であるため。
○・２・３年：数学・英語
生徒の理解度に差が出やすい教科であるため。

（２）年次ごとの計画

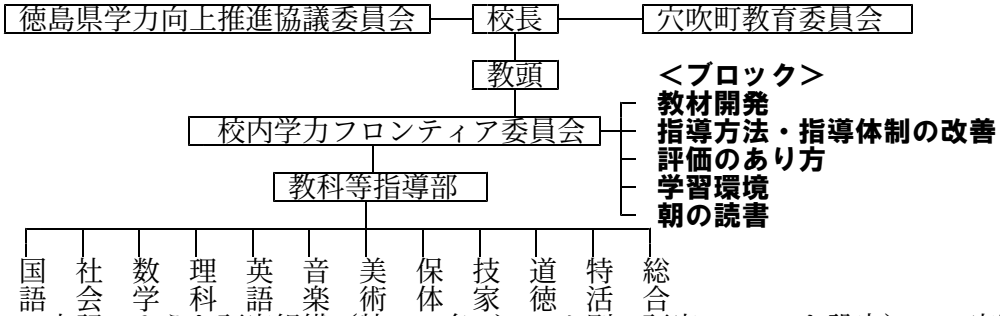
平成14年度	○テーマ 生きる力の育成をめざした基礎・基本の確実な定着 ○研究の見通し（仮説） 子どもたちが将来の社会生活を豊かに営むためには，「生きる力」の育成が不可欠である。その基となるのが，各教科の基礎・基本である。この基礎・基本を確実に定着させるためには，個に応じたきめ細かな指導（ＴＴ指導・少人数指導等）を実施し指導方法の工夫改善を進めるとともに，独自の教材開発を進めることが重要であると考える。 ○研究方法 （少人数指導） 1年：国語・数学（１年の生徒数が多いため） （ＴＴ指導） ２・３年　：数学 1年：英語　　（理解度に差が出やすい学年・教科であるため） （読書活動） １週間に１日，朝のドリル学習の時間に読解力の育成を目ざして読書時間（１０分）を設定し，全校読書を実施する。 （自己評価カードの利用） 学習意欲を向上させるとともに，個別指導・指導方法の改善に役立てる。 （週３０時間の教育課程編成） 選択教科の拡大と学年ドリル学習及び教科補充学習に充てる。 （地元高校からの出前授業） 中学校で身につけた基礎・基本が高校での授業に生かせるという自信を持たせ，学習意欲の向上を図る。 （地元小学校への出前授業） 本校へ入学してくる児童の学力を把握するとともに，学習意欲の向上を図る。

平成15年度	○テーマ 生きる力の育成をめざした基礎・基本の確実な定着 ○研究の見通し（仮説） 子どもたちが将来の社会生活を豊かに営むためには，「生きる力」の育成が不可欠である。その基となるのが，各教科の基礎・基本である。この基礎・基本を確実に定着させるためには，個に応じたきめ細かな指導（ＴＴ指導・少人数指導等）を実施し指導方法の工夫改善を進めるとともに，独自の教材開発を進めることが重要であると考える。 本年度は，昨年度の成果と課題を踏まえ，上記の仮説を検証するために，実践研究の充実に一層努める。 ○研究内容 （ＴＴ指導） １・２・３年：国語・数学・英語 (注)数学については，単元末において習熟度別少人数指導を導入。 （習熟度別指導） ３年：選択教科（国・数・英） (注)各教科を基礎・標準・発展の３コースに分けて，自分に合ったコース

	学習を進める。 （読書活動） 毎朝１０分の読書時間を設定し，全校読書を実施する。 （週３０時間の教育課程編成） 選択教科の拡大と学年ドリル学習及び教科補充学習に充てる。 （自己評価カードの利用） 学習意欲を向上させるとともに，個別指導・指導方法の改善に役立てる。 （教材開発） 習熟度別指導に適した教材を開発する。 （地元高校からの出前授業） 中学校で身につけた基礎・基本が高校での授業に生かせるという自信を持たせ，学習意欲の向上を図る。

平成16年度 平成16年度	○テーマ 基礎・基本の確実な定着を図るとともに，生きる力の育成を図るために ○研究の見通し（仮説） 子どもたちが将来の社会生活を豊かに営むためには，「生きる力」の育成が不可欠である。その基となるのが，各教科の基礎・基本である。この基礎・基本を確実に定着させるためには，個に応じたきめ細かな指導（ＴＴ指導・少人数指導等）を実施し指導方法の工夫改善を進めるとともに，独自の教材開発を進めることが重要であると考える。しかし，基礎・基本が定着したからと言って，それがそのまま「生きる力」の育成につながるとは限らない。 そこで，次年度は，子どもたちに「生きる力」を育成するために，昨年度までの成果を一層充実発展させながら各教科等と総合的な学習の時間との連携を図る取組を進め，研究指定最終年度のまとめとしたい。 ○研究の内容 （少人数指導） 国語・数学・社会・理科・英語（２年） (注)１クラスの人数の多い学級を少人数に分けて，きめ細かな指導ができるようにする。 （ＴＴ指導） １・２・３年：国語・数学・英語 (注)数学については，単元末において習熟度別少人数指導を導入。 （習熟度別指導） ３年：選択教科（国・数・英） (注)各教科を基礎・標準・発展の３コースに分けて，自分に合ったコース学習を進める。 （読書活動） 毎朝１０分の読書時間を設定し，全校読書を実施する。 （週３０時間の教育課程編成） 選択教科の拡大と学年ドリル学習及び教科補充学習に充てる。 （自己評価カードの利用） 学習意欲を向上させるとともに,個別指導・指導方法の改善に役立てる。 （教材開発） 習熟度別指導に適した教材を開発する。 （地元高校からの出前授業） 中学校で身につけた基礎・基本が高校での授業に生かせるという自信を持たせ，学習意欲の向上を図る。 （総合的な学習の時間） すべての教科等の力を発揮しないと解決できないようなテーマを設定し，教科学習において身につけたことを生かしながら，テーマに沿って自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，問題を解決する力，表現する力などを身につけさせる。

（３）研究推進体制



上記のような研究組織（特に，各ブロック別に研究テー マを設定）で，実践研究を進める。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○指導体制を工夫することにより，教師は，生徒の実態を複眼的に，また，詳細に把握することができた。
○自分にあった教材や学習方法を選んで学習できるため，楽しくわかりやすくなったという声が聞けるようになった。
○全体的に，落ち着いて集中した学習の雰囲気ができた。
○担当する教師同士が一緒に教材研究できるので，授業の質の向上が図れた。

２．　今後の課題

○校内の研究組織である「校内学力向上委員会（ブロック別研究）」を見直し，さらに充実した計画・実践にする。
○「生きる力」の育成をめざし，「総合的な学習の時間」との連携のあり方について研究を進める。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

○生徒の意識等各種アンケートの実施。
○標準学力検査（５教科）の実施。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○平成１５年度中間報告として「研究紀要」にまとめるとともに，学力向上フロンティアスクール研究発表会（平成１５年１１月２１日）を実施して普及した。

◇　次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　■１４年度からの継続校

【学校規模】　□３学級以下　■４～６学級　□７～９学級　□１０～１２学級　□１３学級～１５学級　□１６学級以上

【指導体制】　■少人数指導　■ＴＴによる指導　■その他

【研究教科】　■国語　□社会　■数学　□理科　□外国語　□音楽　□美術　□技術・家庭　□保健体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無